

# 離島医療新たな一歩

## 県立看護大 宮古島教室

### 盛島さん「経験の後輩へ」 美底さん「外部連携探る」



県立看護大学(野口美和子学長)の二〇〇九年度入学式が二日、同大学で開かれた。大学が宮古島の県立宮古病院内に設置した宮古島教室の一期生として、元保健師の盛島幸子さん(五八)同市と波照間島診療所に勤務する看護師・美

底恭子さん(三九)波照間島が入学した。二人は二年前、大学院博士前期課程として島しょ地域特有の医療・看護の在り方などについ

て学ぶ。

「離島でも本島に近い医療サービスが受けられるような仕組みづくりに取り組みたい」と語る盛島さんは一九七五年、駐在保健師として波照間島に着任した。三月末の退職まで、多良間島や宮古島など離島の福祉保健所を中心に勤務し、急患の搬送体制整備など、離島特有の問題解決に取り組んできた。

「これまで現場で経験してきたことに論理的な意味付けをして、それを後輩につなげたい」と意気込む。美底さんは宮城県出身。神奈川県の病院に勤務していたが、離島・へき地での勤務を経験したいと思い、一九九三年に石垣市に移住した。九八年から波照間島の診療所に勤務している。今後は毎週土曜日、波照間島から宮古島まで飛行機で通学する。日曜まで講義を受けて翌週月曜朝の便で波照間に戻る学生生活が始

まる。

美底さんは「医師一人、看護師一人の診療所では、何でも自分のやり方でやってきた。へき地医療について専門的に学び、外部の医療機関とどのように連携すればよいのかを探りたい」と目を輝かせた。